

# 収集資料について

参考 4

## 1. 収集資料収蔵スケジュールの概観

2019年度 ~2019年度までの収集資料についてデータベース入力（完了）。

2020年度 収蔵庫の水分・ガスの浸出具合をみながら2~3回に分けて仮収蔵庫から伝承館へ運搬。→最初は6月中に展示資料運搬。運搬と同時に配架棚をデータベースに入力。→この作業完了の段階で収蔵資料が収蔵庫のどこにあるかが検索可能になる。

2021年度以降早期

収蔵資料にバーコード（あるいはQRコード等）を付し、データベースと連携させる→展示中・貸出中、修復中など資料のステータスも検索可能にする。

## 2. 2020年度の収集資料搬入計画

①開館直前の令和2年6月に常設展示資料を搬入

②夏季はガスや水分が多く出るため、例えば12月、1月、2月の3回にけて庫内の環境を観察しながら仮収蔵庫から伝承館収蔵庫へ資料を搬入する。

## 3. 伝承館収蔵庫の配架計画

東日本大震災・原子力災害伝承館での収蔵計画においては、次の優先順位に基づいて資料を配架

第1優先順位 床面ではなく棚へ配架すること。

第2優先順位 同じ出所の資料（=資料群）は同じ場所、同じ棚に配架すること。

第3優先順位 サイズや形状の都合から棚に配架できない場合には該当資料が自立するかしないかで分類・整理して床置き場に置くこと。

例：自立する＝キャスター等が付いている 自立しない＝黒板など脚が付いていない

第4優先順位 同じ材質の物はなるべく同じ場所に配架すること。

第5優先順位 常設展示物の類似品はなるべく取り出しやすい位置に配架すること。

※上記5点の優先順位を基に資料を収蔵庫へ配架し、将来的にはバーコードやQRコードでの資料管理につなげたい。

※資料保全の観点からは第4優先順位がもっと上位に来るべきである。



伝承館の収蔵庫には特に床面に限りがあるため、上記のような優先順位とした